

北海道北見市常呂町岐阜方言



北海道方言区画図

【北海道の方言区画】北海道は、一般に海岸部と内陸部との間に海岸方言（または海岸部方言）と内陸方言（内陸部方言）の方言区画がたてられる（石垣 1982, 1983 他）。これには、それぞれの地域への移住の歴史が大きく関わっている。海岸部地域は、道南地域への移住が 14 世紀頃から始まり、道東・道北・オホーツク沿岸地域へと新たな漁場を開拓すべく、漁民が移動することにより形成された。これに対し、内陸部地域は、19 世紀末から屯田兵や集団移住・個人の移住などによって開拓が進められることにより形成された。前者は、北東北地域から移住した人の多い道南地域からの伝播により形成され、後者は全国各地からの移住者の持ち込んだ方言の接触により成立した。石垣（1983）によれば、両者の違いの例として「明々後日」を海岸方言では「ヤナアサツテ」、内陸方言では「シアサツテ」と言うなどがある。

北海道は九州の約 2 倍の広さを有することから、海岸方言・内陸方言の中にも地域差が認められる（石垣 1982, 1983, 小野 1982 他）。海岸方言については渡島半島における道南方言、松前方言、道東・道北・オホーツク沿岸方言の 3 つに、内陸方言については、炭鉱地帯方言、農村地帯方言、都市方言の 3 つにそれぞれ区画が設定できることが提唱されている（石垣 1983）。なお、内陸方言の下位分類を行う基準が地域ではなく社会特性に基づく。

つまり、炭鉱地帯には例えば夕張市などのように

地域的には内陸方言であるが、居住者に海岸方言の特徴を持つ話者が多かったり、反対に、道東・道北・オホーツク沿岸方言は、地域的に沿岸方言であるが、居住者に内陸方言の特徴を持つ話者が多かったりするわけである。

【常呂町岐阜方言について】常呂町は北見市の北東部に位置する。1915 年に周辺の村との合併で常呂村が誕生。常呂川の開拓と共に常呂町、北見市、端野町などが開発されていく。その後、2006 年までは常呂郡常呂町であったが、市町村合併により北見市常呂町となった。当地域は漁業と農業を基幹産業として発展した。漁業ではホタテ漁、農業では馬鈴薯やビートなどの収穫が多いことで知られる。

常呂町は先に示した方言区画からすると海岸方言の「道東・道北・オホーツク沿岸方言」地域である。同町は、漁師の住む地区と農業を営む人の地区とに分けられる。漁師の住む地区ではいわゆる沿岸方言（目的を表す「バ」や場所や報告を表す「サ」など）が使用されるが、それ以外では内陸方言の特徴を持ち合わせたことばが使用される。

本稿では、常呂町のある地区のうち、岐阜地区を取り上げる。この地区は岐阜県揖斐郡大野町から移住してきた人たちの子孫で主に構成される。「岐阜部落」の住民としての帰属意識も強い。郷里である大野町と常呂町との間で「カキカキ交流（当地の名産である牡蠣・柿を送り合う）」などもなされる。

常呂町岐阜では、西美濃方言が当地に持ち込まれ、現在に到るまでの間、北海道方言の影響を受けながら変容してきている。

【調査概要】本稿の記述は、常呂町岐阜で生育し、調査時も居住する高年層話者（昭和 17 年生まれ）を対象とする臨地面接調査にもとづく。用例は臨地調査で得られたものである。

北海道北見市常呂町岐阜方言の活用表

《動詞》

		多段型 書く	一段型 見る	来る	する
終 止 類	断定非過去	カク	ミル	クル	スル
	断定過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	命令	カケ カキンサイ カキナサイ	ミヨ ミレ ミンサイ ミナサイ	コイ キンサイ キナサイ	シレ セー シンサイ シナサイ
	禁止	カクナ カキンサンナ	ミルナ カキンサンナ	クルナ カキンサンナ	スルナ カキンサンナ
	意志	カコー	ミヨー	コヨー	シヨー
接 続 類	推量	カコー カクジャロ カクヤロ	ミヨー ミルジャロ ミルヤロ	コヨー クルジャロ クルヤロ	シヨー スルジャロ スルヤロ
	連体非過去	カク	ミル	クル	スル
	連体過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	中止	カITE	ミTE	キTE	シTE
派 生 類	仮定	カケバ	ミレバ	コエバ	スレバ
	否定	カカン	ミン	コン	セン
	丁寧	カキマス	ミマス	キマス	シマス
	使役	カカセル	ミサセル	コサセル	サセル
	自発	カカサル	ミサル ミラサル	コササル コラサル	ササル サラサル
	受身	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル
	可能肯定	カケル	ミレル	コラレル コレル	《デキル》
	可能否定	ヨー カケン ヨー カカン	ヨー ミレン ヨー ミン	ヨー コラレン ヨー コレン ヨー コン	《ヨー デキン》 ヨー セン
	尊敬	カキンサル	ミンサル	《オンサル》	《ナサル》
	継続	カイトル	ミトル	キトル	シトル
	希望	カキタイ	ミタイ	キタイ	シタイ
のだ	カクンジャ	ミルンジャ	クルンジャ	スルンジャ	

多段型動詞の基幹音便形

語幹末子音	語例	活用形例(過去形)	作り方
k	書く kak・u	カイ-タ	kをiにする。「行く」ik・uはkをQ(促音)にし「イッ-タ」。
g	嗅ぐ kag・u	カイ-ダ	gをiにする。-タが-ダになる。
s	出す das・u	ダシ-タ	音便形をとらず、基幹イ段形を用いる。
t/c	立つ tac・u	タツ-タ	t/cをQ(促音)にする。
n	死ぬ sin・u	シン-ダ	nをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
b	飛ぶ tob・u	トン-ダ	bをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
m	飲む nom・u	ノン-ダ	mをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
r	切る kir・u	キッ-タ	rをQ(促音)にする。
w/ø	買う ka(w)・u	カッ-タ	wをQ(促音)にする。

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

		赤い	静か(だ)	学生(だ)
終止類	断定非過去	アカイ	シズカジャ	ガクセージャ
	断定過去	アカカッタ	シズカジャッタ	ガクセージャッタ
	推量	アカジャロ	シズカジャロ	ガクセージャロ
接続類	連体非過去	アカイ	シズカナ	《ガクセーノ》
	連体過去	アカカッタ	シズカジャッタ	ガクセージャッタ
	中止	アカテ	シズカデ	ガクセーデ
	仮定	アカケリヤ	シズカナラ シズカジャッタラ	ガクセーナラ ガクセージャッタラ
派生類	否定	アカナイ	シズカジャナイ シズカデナイ	ガクセージャナイ ガクセーデナイ
	なる	アカナル	シズカナル	ガクセーニナル
	丁寧	アカイデス	シズカデス	ガクセーデス
	のだ	アカインジャ	シズカナンジャ	ガクセーナンジャ

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

規則的な活用型として基幹多段型(以下「多段型」)と基幹一段型(以下「一段型」)がある。おおよそ、多段型にはa類のうち「書く」・「居る」類、一段型にはb類である「見る」・「起きる」・「開ける」などの動詞が属する。

多段型の基幹にはア・イ・ウ・エ・オ段の5形、および、音便形がある。「カク」(書く)の場合、カカ-ン(kak・a-N)、カキタイ(kak・i-tai)、カク(kak・u)、カケ(kak・e)、カコー(kak・oR)、カキヤ(kak・ja)など。また、語幹末子音には、k(カ行)、g(ガ行)、s(サ行)、t(タ行)、n(ナ行)、b(バ行)、m(マ行)、r(ラ行)、w(ワ行)がある。語例は表「多段型動詞の基幹音便形」を参照。

一段型には、ミ-ル(mi-ru)、オキ-ル(oki-ru)など基幹がイ段の動詞と、ネ-ル(ne-ru)、アケ-ル(ake-ru)など基幹がエ段の動詞がある。一段型の動詞は「ミル」を例にすると、断定非過去ミ-ル(mi-ru)、仮定形ミ-レバ(mi-reba)、禁止ミ-ルナ(mi-runna)、推量ミ-ルジャロ(mi-ruzjaro)ミ-ルヤロ(mi-rujaro)、受身ミ-ラレル(mi-rareru)、可能肯定ミレル(mi-reru)で、rで始まる接辞がつき、多段型のr語幹動詞に対応した形となる。

不規則な活用をする動詞に「クル」(来る)、「スル」(為る)がある。ともに一段型に近い活用をするが、「クル」は、キ-タ(k-i-ta)、クル(k-u-ru)、コ-ン(k-o-N)などのように、基幹「キ」「ク」「コ」の3段にわたる。なお、尊敬オンサル(o-nsaru)の語幹はそもそも「コ」系であり、語頭音kが脱落したものと見

なせば、同形は基幹「コ」に属するとみなせる。「スル」は、サ-レル (s-a-ru), シタ (s-i-ta), スル (s-u-ru), セン (s-e-N) のように、基幹が「サ」「シ」「ス」「セ」の4段にわたる。

(2) 各活用形の特徴

〈断定非過去形〉

多段型動詞は「カク」など基幹ウ段形となる。一段型動詞は「ミル」など、「基幹(語幹)+ル」、「来る」「する」は「ウ段形+ル」で「クル」と「スル」となる。

- ・コレカラ メモオ カク。(これからメモを書く。)
- ・タローガ ナカニ オル。(太郎が中にいる。)
- ・マイニチ テレビ ミル。(毎日テレビを見る。)
- ・イツモ ゴジニ オキル。(いつも5時に起きる。)
- ・モースグ タローガ ココニ クル。(もうすぐ太郎がここに来る。)
- ・イマカラ シゴトオ スル。(これから仕事をする。)

〈断定過去形〉

多段型は基幹音便形に、一段型動詞は基幹(=語幹)に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に「タ」を後接する。

- ・キノー ニッキ カイタ。(昨日日記を書いた。)
- ・サッキマデ タローガ オッタ。(さっきまで太郎がいた。)
- ・キノー テレビ ミタ。(昨日テレビを見た。)
- ・キノー ログジニ オキタ。(昨日6時に起きた。)
- ・キノー タローガ ココニ キタ。(昨日太郎がここに来た。)
- ・キノー シゴトオ シタ。(昨日仕事をした。)

〈命令形〉

命令形は、いわゆる一般的な(ぞんざいな)命令で、多段型動詞では、「カケ」「オレ」などエ段形、一段型動詞では「ミヨ」「オキヨ」のように基幹(=語幹)に「ヨ」を後接する。同時に、「ミレ」「オキレ」などrで始まる接辞がつく。「来る」では「コイ」、

「する」では「シレー」「セー」などとなる。

- ・ハヨー カケ。(早くメモを書け。)
- ・シバラク ココニ オレ。(しばらくここにいろ。)
- ・マイニチ ニュースオ ミヨ。(毎日ニュースを見る。)
- ・ハヨ オキヨ。チコクスルヨ。(早く起きろ。遅刻するよ。)
- ・イマカラ ココニ コイ。(今からここ来い。)
- ・ハヤク シゴトオ {シレ/セー}。(これから仕事をしろ。)

一方、形の上では尊敬命令形にあたるもので、多段型動詞・「来る」「する」のイ段形、一段型動詞の基幹(=語幹)に「ンサイ」「ナサイ」をつける。なお、動詞「居る」では、オル系の「オリナサイ」ではなく、イル系の「イナサイ」となる。いずれにせよ、主に親しい聞き手に行為を要求する時に男女問わず使用しやすい。

- ・ハヤク {カキンサイ/カキナサイ}。(早くメモを書きなさい。)
- ・シバラク ココニ {オリンサイ/イナサイ}。(しばらくここにいなさい。)
- ・マイニチ ニュースオ {ミンサイ/ミナサイ}。(毎日ニュースを見なさい。)
- ・ハヨ {オキンサイ/オキナサイ}。チコクスルヨ。(早く起きなさい。遅刻するよ。)
- ・イマカラ ココニ {キンサイ/キナサイ}。(今からここ来なさい。)
- ・ハヤク シゴトオ {シンサイ/シナサイ}。(これから仕事をしなさい。)

〈禁止形〉

命令形に対応して二つの形がある。一般的な(ぞんざいな)禁止の場合、「ミル」「クル」のように断定非過去形に「ナ」を付した形となる。

- ・キタナイ ジオ カクナ。(汚い字を書くな。)
- ・コンナ サムイ トコロニ イツマデモ オルナ。(こんな寒いところにいつまでもいるな。)
- ・クダラナイ バングミオ ミルナ。(くだらない番組を見るな。)
- ・グアイガ ワルイノニ ムリニ オキルナ。

(具合が悪いのに無理に起きるな。)

・アシタワ ココニ クルナ。(明日はここに来るな。)

・バカナ コトオ スルナ。(バカなことをするな。)

一方、もう一つの禁止形は、尊敬丁寧禁止形にあたるもので、多段型動詞・「来る」「する」のイ段形、一段動詞の基幹(=語幹)に「ンサンナ」が付く。

・キタナイ ジオ カキンサンナ。(汚い字を書きなさるな。)

・クダラナイ バングミオ ミンサンナ。(くだらない番組を見なさるな。)

・グアイガ ワルイノニ ムリニ オキンサンナ。(具合が悪いのに無理に起きなさるな。)

・アシタワ ココニ キンサンナ。(明日はここに来なさるな。)

・バカナ コトオ シンサンナ。(バカなことをしなさるな。)

〈意志形〉

意志形は、多段型動詞は「カコー」「オロー」などオ段長音形となる。一段型動詞は「ミヨー」「オキヨー」など「基幹+ヨー」となる。「来る」は「コヨー」となる。「する」は「シヨー」となる。なお、北海道各地で「イクベ」や「スルベ」のように「断定非過去形」に「ベ」が付く形は観察されるが、聞き取りを行った話者は使用しないと報告している。

・ヒトリデ テガミオ カコー。(一人で手紙を書こう。)

・シバラク ココニ オロー。(しばらくここにしよう。)

・イマカラ テレビオ ミヨー。(今からテレビを見よう。)

・アシタワ ロクジニ オキヨー。(明日は6時に起きよう。)

・マタ ココニ コヨー。(またここに来よう。)

・イマカラ シゴトオ シヨー。(今から仕事をしよう。)

〈推量形〉

推量形には二つある。一つは意志形と同じ形である。もう一つは「カクジャロ」「カクヤロ」のように「断定非過去形+ジャロ(またはヤロ)」である。意志形と同様、推量形でも「断定非過去形」に「ベ」

が北海道内各地の方言では付くが、聞き取りを行った話者は使用しないと報告している。

・タローガ テガミオ {カクジャロ/カクキヤロ}。(太郎が手紙を書くだろう。)

・タローワ トナリノヘヤニ {オルジャロ/オルヤロ}。(太郎は隣の部屋にいるだろう。)

・ハナコモ ソノ バングミオ {ミルジャロ/ミルヤロ}。(花子もその番組を見るだろう。)

・ハナコワ ロクジニ {オキルジャロ/オキルヤロ}。(花子は明日は6時に起きるだろう。)

・ハナコワ モースグ ココニ {クルジャロ/クルヤロ}。(花子はもうすぐここに来るだろう。)

・タローワ イマカラ シゴトオ {スルジャロ/スルヤロ}。(太郎は今から仕事をするだろう。)

〈連体非過去形〉

連体非過去形は断定非過去形と同形で、「カク」「オル」「ミル」「オキル」「クル」「スル」などとなる。

・アサ ヨジニ オキル ヒトモ オル。(朝四時に起きる人もいる。)

・イマカラ シゴトオ スル ヒトモ オル。(今から仕事をする人もいる。)

〈連体過去形〉

連体過去形は断定非過去形と同形で「タ」を付す形である。

・キノー シゴトオ シタ ヒトモ オル。(昨日仕事をした人もいる。)

・コノ ホンオ カイタ ヒトニ アッタ。(この本を書いた人に会った。)

〈中止形〉

中止形は「テ」が使われる。多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹(=語幹)に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に「テ」を後接する

・ハナコガ ブンオ カイテ タローガ エオカイタ。(花子が文を書いて、太郎が絵を書いた。)

・マズ マドオ アケテ、ソレカラ ソージオスル。(まず窓を開けて、それから掃除をする。)

〈仮定形〉

仮定形は「バ」であり、一段型動詞の基幹(=語幹)、「スル」はイ段形に「バ」を後接するものである。なお、多段型動詞において、例えば「カキヤ」のような基幹(=語幹)にア段拗音が付す形もある。

- ・イマカラ テガミオ カキヤ マニアウ。(今から手紙を書けば、間に合う。)
- ・ロクジニ オキレバ ヒノデガ ミレル。(6時に起きれば、日の出が見られる。)
- ・キョー コノ シゴトオ スレバ アシタワヤスメル。(今日この仕事をすれば、明日は休める。)

また、「来る」については、海岸方言の語形「コエバ」が用いられる。

- ・ハナコガ コエバ ミンナ ヨロコブジャロ。(花子が来たら、みんな喜ぶだろう。)

〈否定形〉

否定形は、「ン」が用いられる。多段型動詞のア段形、ならびに一段型動詞の基幹(=語幹)、「来る」のオ段形、「する」のエ段形にそれぞれ「ン」を後接する。なお、断定否定過去・連体過去形については、「ナンダ」が用いられる。以下、否定形の活用を「見る」で代表させて示す。

- 断定非過去・連体非過去形 ミン
- 断定過去・連体過去形 ミンカッタ、ミナンダ
- 推量 ミンジャロー
- 中止形 ミンデ
- 仮定形 ミンカッタラ、ミナンダラ

- ・テガミオ カカン。(手紙を書かない。)
- ・ワタシワ アマリ テレビオ ミン。(私はあまりテレビを見ない。)
- ・キノワ テレビオ {ミンカッタ/ミナンダ} (昨日はテレビを見なかった)
- ・サムイデ マドオ アケン。(寒いから窓を開けない。)
- ・タマタマ ソト {ミンカッタラ/ミナンダラ} キガ ツカナンダ。(たまたま外を見なければ気が付かなかった。)
- ・キョーワ ハナコワ ココニ コン。(今日は花子はここには来ない。)
- ・キョーワ シゴトオ セン。(今日は仕事はしない。)

〈丁寧形〉

丁寧形「マス」は、多段型動詞と「来る」「見る」はイ段に、一段型動詞は基幹(=語幹)に付く。

- ・ワタシワ テガミオ カキマス。(私は手紙を書きます。)
- ・ワタシワ マイニチ テレビオ ミマス。(私は毎日テレビを見ます。)
- ・モースグ ハナコガ ココニ キマス。(もうすぐ花子がここに来ます。)
- ・イマカラ シゴトオ シマス。(今から仕事をします。)

〈使役形〉

使役形は、多段型動詞はア段形に「セル」が、一段型動詞には基幹(=語幹)に「サセル」が、「来る」は「コ」に「サセル」が、「する」は「サ」に「セル」がそれぞれ付く。「セル/サセル」形は一段型の活用をする。

- ・ジブンデ ナマエオ カカセル。(自分で手紙を書かせる。)
- ・ハナコニ ヒトリデ ニュースオ ミサセル。(花子に一人でニュースを見させる。)
- ・ハナココ ココニ コサセル。(花子をここに来させる。)
- ・タローニ ヒトリデ シゴトオ サセル。(太郎に一人で仕事をさせる。)

〈自発形〉

自発形は「サル」と「ラサル」「ササル」がある。多段型動詞のア段形に「サル」が付く。一段型動詞の基幹(=語幹)に「サル」「ラサル」「来る」には「コ」に「サル」「ササル」「ラサル」「する」には「サ」に「サル」「ラサル」が付く。「ラサル」より「サル」の方が優勢である。これらの形は、多段型の活用をする。

- ・ニッキオ カカサル。(日記を書いてしまう。)
- ・オモワズ ジョウシノ カオオ {ミサル/ミラサル}。(思わず上司の顔を見てしまう。)
- ・ケッセキヨテーノ ユージンガ ボーンエンカイニ {コササル/コラサル}。(欠席予定の友人が忘年会に来てしまう。)
- ・アイツワ マタ チコクオ {ササル/サラサル}。(あいつはまた遅刻をしてしまう。)

〈受身形〉

受身形は「レル」「ラレル」の二つがある。多段型動詞のア段形に「レル」が、一段型動詞には基幹(=語幹)に「ラレル」が、「来る」には「コ」に「ラレル」または「レル」が、「する」は「サ」に「レル」が付く。「レル/ラレル」形は一段型の活用をする。

- ・イエノ ヘーニ キタナイ エオ カカレル。(家の塀に汚い絵を書かれる。)
- ・コロンダ トコロオ タローニ ミラレル。(転んだところを太郎に見られる。)
- ・キラিজァッタ ハナコニ コラレル。(嫌いだった花子に来られる。)
- ・タローニ ヒドイ コトオ サレル。(太郎にひどいことをされる。)

〈可能(肯定・否定)形〉

可能形は肯定と否定で異なる。まず、肯定形であるが、多段型動詞ではエ段形に「ル」が付く。一段型動詞では基幹(=語幹)に「レル」、「来る」ではオ段形に「ラレル」「レル」が付く。なお、「する」にはこれらにあたる形はなく、代替動詞「デキル」を用いる。これらは一段型の活用をする。

- ・ココワ アカライノデ ジガ チャント カケル。(ここは明るいので、字がちゃんと書ける) [状況・肯定]
- ・ハナコワ チーサイガ シッカリ シトルデ ヒトリデ エーガガ ミレル。(花子は小さいが、しっかりしているので、一人で映画が見られる。) [能力・肯定]
- ・エキカラ チカインデ アルイテ {コラレル/コレル} (駅から近いので、歩いて来られる。) [状況・肯定]
- ・タローワ メンキョオ モツテイルノデ ヒトリデ コノ シゴトガ デキル。(太郎は免許を持っているので、一人でこの仕事ができる。) [能力・肯定]

次に否定形であるが、多段型動詞のエ段形に「ン」が付き、一段型動詞では基幹(=語幹)に「レン」、「来る」ではオ段形に「ラレン」「レン」が付く。「する」では代替動詞「デキル」の基幹(=語幹)に「ン」が付く。いずれの場合においても、「ヨー カケン」など副詞「ヨー」と否定形で作られる。これらの他には、一般否定形(「カカン」「ミン」「コン」「セン」)が、副詞「ヨー」とともに用いられる。

- ・ココワ クライノデ ジガ チャント {ヨニ カケン/ヨー カカン} (ここは暗いので、字がちゃんと書けない) [状況・否定]
- ・ハナコワ マダ チイサイノデ ヒトリデ エイガガ {ヨー ミレン/ヨー ミン}。(花子はまだ小さいので一人で映画が見られない。) [能力・否定]
- ・エキカラ トーイノデ アルイテワ {ヨー コラレン/ヨー コレン/ヨー コン} (駅から遠いので、歩いては来られない。) [状況・否定]
- ・タローワ メンキョガ ナインデ ヒトリデ コノ シゴトガ {ヨー デキン/ヨー セン}。(太郎は免許がないので、一人でこの仕事ができない。) [能力・否定]

〈尊敬形〉

尊敬形には、多段型動詞のイ段形に、一段型動詞の基幹(=語幹)に「ンサル」が付く。これは話者の郷里方言である西美濃方言ではごく一般的に使われる形式である(山田 2017)。「する」は「ナサル」となる。

- ・センセーガ テガミオ カキンサル。(先生が手紙を書かれる。)
- ・センセーワ アサノ ニュースオ ミンサル。(先生は朝のニュースを見られる。)
- ・センセーガ ヒトリデ シゴトオ ナサル。(先生が一人で仕事をなさる。)

「来る」には、尊敬語「オンサル」が用いられる。この形は「居る」の意味でも使われる。「オンサル」は、多段型動詞の基幹音便形に「ンサル」が付く形をとる。

- ・センセーガ モースグ ココニ オンサル。(先生がもうすぐここに来られる。)
- ・センセーガ イマ ナカニ オンサル。(先生が今、中にいらっしゃる。)

〈継続形〉

継続形は、多段型動詞においては基幹音便形に、一段型動詞では基幹(=語幹)に、「来る」と「する」ではイ段形に「トル」が付く。この形で動作・変化の進行、結果継続を表す。北海道方言では「テイル」が優勢であることから、これも西美濃方言の影響と言える。

- ・タローワ イマ テガミオ カイトル (太郎は今、手紙を書いている) [進行]
- ・ハナコワ モー ソノ エーガオ ミトル。(花子はもうその映画を見ている。) [結果]
- ・タローワ キノーカラ コノ シゴトオ シトル。(太郎は昨日からこの仕事をしている。) [進行]

〈希望形〉

希望形は「タイ」を使う。多段型動詞はイ段、イ段動詞には基幹 (= 語幹)、「来る」は「キ」、「する」は「シ」に「タイ」が付く。

- ・フデジャ ナクテ エンピツデ カキタイ。(筆じゃなくて、鉛筆で書きたい。)
- ・マタ ココニ キタイ。(またここに来たい。)

〈のだ形〉

連体非過去形に「準体助詞ン+助動詞ジャ」を後接する。

- ・ヤキューチューケーガ ミタインジャ。(野球中継が見たいんだ。)
- ・タローワ ヒトリデ コノ シゴトオ スルンジャ。(太郎は一人でこの仕事をするんだ。)

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

【形容詞】

形容詞の活用は一つである。中止形・否定形・なる形において、語幹が用いられる。なる形で例示する。なお、「よい」では「ヨーナル」と語幹の長音形が用いられる。「ない」では「ノーナル」となるが、「濃い」では「コーナル」とはならず「コクナル」となる。また、他の形容詞でも「語幹+ク+ナル」の形も使われることがある。

語幹末母音	語例
a	アカナル (赤い)
i	オーキナル (大きくなる) ウレシナル (嬉しくなる)
u	ワルナル (悪くなる)
o	ヨーナル (良くなる) オモナル (重くなる)

〈断定非過去形〉

断定非過去形と連体非過去形は同形で、語幹に「イ」

を付ける。

- ・コノ トマトワ アカイ。(このトマトは赤い。)

〈断定過去形〉

断定過去形は、「アカカッタ」など語幹に動詞的な接辞「カッタ」を付す。

- ・キノー カッタ トマトは アカカッタ。(昨日買ったトマトは赤かった。)

〈推量形〉

語幹に断定非過去形に「ジャロ」を付す形がある。

- ・コノ トマトワ ナカモ アカイジャロ。(このトマトは中も赤いだろう。)

〈連体非過去形〉

連体非過去形は断定非過去形と同形で、語幹に「イ」を付ける。

- ・アカイ トマトオ カウ。(赤いトマトを買う。)

〈連体過去形〉

連体過去形は、断定過去形と同形で、語幹に動詞的な「カッタ」を付ける。

- ・キノーマデ アカカッタ ミガ クロナツテ マッタ。(昨日まで赤かった実が黒くなってしまった。)

〈中止形〉

語幹末に「テ」を付す。「よい」「ない」の場合は前掲の語幹末母音の長音形「ヨー」「ノー」に「テ」を付す。

- ・コノ カミワ アカテ、アノ カミワ シロイ。(この紙は赤くて、あの紙は白い。)
- ・アノ ニモツワ オモテ、テガ イタナツタ。(あの荷物は重くて、手が痛くなった。)

〈仮定形〉

語幹に「ケリヤー」を付ける。

- ・モシ モー ミガ アカケリヤー トロー。(もしもう実が赤ければ、採ろう。)

〈否定形〉

語幹末に「ナイ」を付す。「よい」「ない」の場合は前掲の語幹末母音の長音形「ヨー」「ノー」に「テ」を付す。

- ・マダ ミガ アカナイ。(まだ実が赤くない。)
- ・マダ カラダノ グアイガ ヨーナイ。(まだ体の調子が良くない。)

〈なる形〉

語幹に「ナル」を付ける。「よい」「ない」の場合は前掲の語幹末母音の長音形「ヨー」「ノー」に「ナル」を付す。前述のとおり「語幹+ク」に「ナル」が付くこともある。

- ・モースグ ミガ アカナル。(もうすぐ実が赤くなる。)
- ・アト スコシデ テンキガ ヨーナル。(あと少しで天気が良くなる。)

〈丁寧形〉

断定非過去形に「デス」を付ける。

- ・コノ トマトワ アカイデス。(このトマトは赤いです。)

〈のだ形〉

連体非過去形に「ン+ジャ」を後接させる。

- ・コノ トマトワ ナカマデ アカインジャ。
(このトマトは中まで赤いんだ。)

【形容名詞述語・名詞述語】

形容名詞述語は、「シズカジャッタ」のように名詞述語と同じ形を用いる。当該方言では、「シズカヤッタ」と「ヤ」が現れることがあるが、以下では「ジャ」で代表させる。

〈断定非過去形〉

形容名詞・名詞に「ジャ」を後接する。

- ・コノ ヘヤワ シズカジャ。(この部屋は静かだ。)
- ・タローワ ガクセージャ。(太郎は学生だ。)

〈断定過去形〉

形容名詞・名詞に「ジャッタ」を後接した形が使われる。

- ・アノ ヘヤワ シズカジャッタ。(この部屋は静かだった。)
- ・キョネンマデワ タローワ ガクセージャッタ。(太郎は学生だ。)

〈推量形〉

形容名詞・名詞に「ジャロー」を後接した形が用いられる。

- ・ムコーワ モット シズカジャロー。(向こうはもっと静かだろう。)
- ・タローモ マダ ガクセージャロー。(太郎もまだ学生だろう。)

〈連体非過去形〉

形容名詞述語には、「ナ」を付した形が使われる。名詞には助詞「ノ」が使われる。

- ・シズカナ ヘヤニ オル。(静かな部屋にいる。)
- ・イマモ ガクセーノ トモダチ。(今も学生である友達。)

〈連体過去形〉

連体過去形は断定過去形と同形で、形容名詞、名詞のいずれにも「ジャッタ」を後接した形を用いる。

- ・サッキマデ シズカジャッタ ヘヤガ ウルサクナッタ。(さっきまで静かだった部屋がうるさくなった。)
- ・キョネンマデ ガクセージャッタ トモダチ。
(去年まで学生だった友達。)

〈中止形〉

形容名詞・名詞に「デ」を後接する。

- ・コノ ヘヤワ シズカデ アノ ヘヤワ ウルサイ。(この部屋は静かで、あの部屋はうるさい。)
- ・タローワ ガクセーデ ハナコワ カイシャジンジャ。(太郎は学生で花子は会社員だ。)

〈仮定形〉

形容名詞・名詞に「ナラ」「ジャッタラ」を後接する。

- ・マワリガ モット {シズカナラ/シズカジャッタラ} ネムレルジャロー。(周りが静かなら眠れるだろう。)
- ・モシ タローガ {ガクセーナラ/ガクセージャッタラ} コノ シゴトワ タノメナイ。
(もし太郎が学生ならこの仕事は頼めない。)

〈否定形〉

形容名詞・名詞ともに、「デ」または、「で+は」の縮約形「ジャ」に形容詞「ナイ」を後接する。

- ・コノ ヘヤワ アマリ {シズカデナイ/シズカジャナイ}。(この部屋はあまり静かじゃない。)
- ・タローワ {ガクセーデナイ/ガクセージャナイ}。(太郎は学生ではない。)

〈なる形〉

形容名詞・名詞に「ニ」、さらに「ナル」を後接する。

- ・モースグ シズカニナル。(もうすぐ静かになる。)
- ・センモンガッコノ ガクセーニナル。(専門学校の学生になる。)

〈丁寧形〉

形容名詞・名詞に「デス」を後接する。

- ・コノ ヘヤワ シズカデス。(この部屋は静かです。)
- ・タローワ ガクセーデス。(太郎は学生です。)

〈のだ形〉

形容名詞・名詞に「ナ」、さらに「ン+ジャ」を付す。

- ・ムコーノ ヘヤガ イーヨ。ケッコー シズカナンジャ。(向こうの部屋がいいよ。結構静かなんだ。)
- ・タローニワ タノメンヨ。マダ ガクセーナンジャ。(太郎には頼めないよ。まだ学生なんだ。)

参考文献

- 五十嵐三郎「北海道方言の概説」『講座方言学 4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会
- 石垣福雄(1983)『北海道方言辞典』北海道新聞社
- 石垣福雄(1982)「北海道沿岸部の方言」『講座方言学 4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会
- 小野米一(1982)「北海道内陸部の方言」『講座方言学 4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会
- 北海道教育大学旭川分校国語学ゼミナール(1979)『ことのは 18号 常呂町言語調査報告』北海道教育大学旭川分校
- 山田敏弘(2017)『岐阜県方言辞典』岐阜大学
(朝日祥之)